



育ちの芽

みくにひじり幼稚園 副園長 奥村 綾

☆『うきうきタイム』の子どもの様子や育ち☆

11月初旬、雨の翌日の出来事、園庭に水たまりがたくさんあったので、寸前まで園庭に出て遊ぶか迷いましたが、晴れていたので戸外遊びをすることにしました。戸外のあらゆるところで泥団子作りを楽しむ姿が見られ、初めは年中、年長児を中心に遊んでいましたが、年少児もその姿を見て、真似をしながら作り始め、遊びが伝承していきました。また、その日は、地盤が緩んでいたためボール遊びを禁止したところ、園庭全体で泥団子作り、泥遊びが盛り上がり、自然の面白さを思う存分味わいながら楽しんでいました。そこから、毎日のように泥団子作りをする子どもが増え、出来た泥団子をビニール袋に入れたり、靴箱に並べたり、誰にも触られないように園庭の隅に隠したりする姿が見られました。園庭のどこの土が固まりやすいか、どうしたら固くなるか考えたり、さらさらの砂をたくさん集め、友達の泥団子にかけてあげたりする姿も見られ、泥団子作り名人がたくさん増えていきました。遊びの伝承、情報の交換・共有を通して、遊びが広がっている様子が分かります。

ホールには、年長児が運動会で取り組んでいたポンポンと太鼓を設定しました。憧れの眼差しで見ていた年中、年少児が、夢中で曲に合わせて太鼓を叩いたり、年長児がリズム打ちをしているのを見ながら、真似をしてみたりする姿が見られました。その中で、年長児がダンスを教えたり、見本になって自信を持って太鼓を叩いたりする姿から、誇らしげな様子が見られました。また、太鼓だけではなく色々な楽器にも親しめるよう、マリンバやグロッケン、ボンゴやコンガなどの楽器を円になるように置き、「大きくトン、小さくトン」の曲に合わせて、強弱をつけながら楽器を鳴らし、間奏でひとつ隣の楽器に移動して、全部の楽器に親しめる遊びを取り入れました。年長児が移動の仕方を年少児に教え、今では年少児だけでも、間奏の間に隣の楽器に移動して演奏する姿が見られます。珍しい楽器に興味津々で、リズム打ちを楽しむ姿が見られます。

きぐみには、塗り絵コーナーを設置しています。初めはキャラクター、車、デザート

など様々な種類の用紙を用意し、まずは、色を塗りこむ面白さを味わう事をねらいに取り入れました。しかし、その中で次第に、キャラクターに関して

「ここ何色やったっけ?」「ここは、この色じゃないよ。」と初めから決まっている色を塗ろうとする姿が見られました。その姿を見て教師間で話し合い、この色を塗るのは間違っていると、固定観念を持たせてしまうのではなく、丸、三角、四角のような形や模様の色を塗り、それぞれの個性が出るように、題材を配慮しました。今では、塗り切れなかったものを、翌日持って来て続きをしている子や、最初の頃に比べて隅々まで塗り込む子どもが増えてきました。年少児も、初めのうちは、一色でぐるぐると丸を描くことが多かったのですが、いろいろな色を使って、白い所がなくなるまで、塗りこめるようになってきました。

また、うきうきタイムが始まった当初、制作コーナーをあか組に設定し、全学年が集まって制作していました。廃材を使って、自由に制作する子もいますが、色々な素材の使い方に気づけるように、牛乳パックやトレイに、予め丸の形を開けたものを用意しておいたり、出来上がりの作品（ティッシュケースに輪ゴムをつけたギター等）を置いておきました。見本通りのものを作って満足する子もいれば、自分なりに工夫して新たなものを作り、発展させている子どももいます。

そんな中、年少はまだ年中、年長児のように、自由に制作をする事が難しい様子で、制作コーナーには行くものの、何もせずに時間が過ぎるという日もありました。そこで、年少児は、つくし組に制作コーナーを設置し、様子を見ながら題材を変え、折り紙、でんぐり、毛糸など色々な素材を使って楽しめるように取り入れることにしました。各部屋に帰り、みんなの前で作ったものを発表したり、飾ったりする事で他の子も興味を持ち、次の日に参加する姿が見られるようになりました。テーマを決める事で落ち着いて作り込んだり、同じテーマを一週間することでそれぞれが工夫して作る姿が見られます。

このように、うきうきタイムでの子どもの姿を観察しながら、今後も子どもの興味・関心を高めていけるよう、子どもの意見も取り入れながら環境設定をしていくとともに、遊びの中から育つ『非認知能力』（想像力・創意工夫する力・探求心や表現力・協調性・思いやり・意欲・積極性・根気等）の目には見えにくい力を育てる様々な工夫をしていきたいと思えます。